

---

# バクフーンのクリスマス

バクフーン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バクフーンのクリスマス

### 【Nコード】

N7684F

### 【作者名】

バクフーン

### 【あらすじ】

クリスマスという事で、バクフーン達の冒険の番外編を作ってみました！

## （前書き）

ポケモン達の世界にもクリスマスがやって来た！

今日は12月25日。

クリスマスだ。

ポケモン達はクリスマスを楽しんでいた。

もちろんあのポケモンも・・・

「はぁ・・・暖房が効いてる部屋って最高」・・・あれ？もしもしバクフーン君？

「おゝ作者じゃん！どうしたよ？」

いやどうしたじゃないよ！なんでクリスマスの日なのに家の中でのんびりくつろいでるんだ？

「だって外寒いんですもの！おまけに雪降ってるし・・・」

あつそういえばバクフーンは寒いのが苦手だったんだっけ？

「こういう寒い日は暖房が効いてる家の中でのんびりするに限るっしょ？」こらこら！せっかくのクリスマスなんだから皆で集まって何かしたら良いじゃないか！

「・・・それを言わないでくれ・・・」

あ、あれ？バクフーンが部屋の隅っこの方でいじけちゃったよ（汗）どうしたのさ？

「・・・俺だって本当は皆でクリスマスを祝いたいんだよ。だから、クリスマスがやってくる一週間も前に皆に言っただ。クリスマス皆で集まってクリスマスパーティーやろうぜってさ。そしたら・・・皆してその日はちょっと別の用事があるから無理なんだって言われたんだ・・・」

あらら（汗）そりや悲しいなあ（汗）でも、君には母親のリリがいるじゃないか！

「母さん昔の友達と一緒にどっか出掛けた・・・」え（汗）まさか今一人か？

「・・・一人ぼっちのクリスマスか・・・ハハハ・・・何かせつな

い（泣）」「あゝまたいじけてしまった（汗）  
ピンポン！

おや、誰かがインターホンを鳴らしたぞ？

「はゝい、どちら様？」バクフーンがドアを開ける。そこにいたのはデリバードだった。

「メリークリスマス はい、君にプレゼントだよ」

そう言つてデリバードはバクフーンに箱を渡した。ん？ちょっと待てよ？確かデリバードのプレゼントって・・・  
ボンッ！！

「うわっ！？」

爆発するんだつたよね（汗）おや？箱が無くなったけど手紙が出てきたぞ？

「なんだこりゃ？」

「それが君へのクリスマスプレゼントだよ じゃ、良いクリスマスを」デリバードは空高く飛んで行ってしまった。

「行っちゃったよ・・・」バクフーン、手紙にはなんて書いてあるんだい？

「えーつと・・・つて差出人の名前書いてないし（汗）まあ良いか・・・なにになに？・・・今夜の9時。シテイの噴水広場に来て・・・つてこれだけしか書いてねえし！？」

なんだろね？

「今夜の9時・・・あと30分で9時になるな。」行くのかい？

「まあちよつと怪しい手紙だけど・・・とりあえず行ってみるよ。」

えーつと・・・確かこの辺に入れてた筈・・・」

タンスの引き出しを開けて何かを探しているバクフーン。  
何を探してるの？

「おっあつたあつた 俺のマフラーと手袋！」

おっ！ポケモンカードゲームで良く見る基本エネルギーの炎が書かれてる手袋に炎をイメージした柄のマフラーか！

「あとは帽子に耳当てをやれば完璧 良し、行くか！」

バクフーンは外に出た。白い粉雪が降り注いでいる。そしてバクフーンが吐く息が白い。

シティのポケモン達が暮らしている家がクリスマス仕様にライトアップされていてとても綺麗だ。

「っうわぁ!？」

あつ（汗）バクフーンが凍結した地面に足を滑らせてこけた（汗）

「イテテテ・・・」

大丈夫かいバクフーン? 「なんとか（汗）ったく!凍結してるとか危なくてしょうがねえよ!」

しょうがないよ。

雪が降る程気温が低いんだから。

「火炎放射!」

あつバクフーンが火炎放射を放って凍結した地面を溶かした。

「よし これで安心して歩けるぜ」

やるなバクフーン。

それからしばらくしてようやくフレイムシティの噴水広場にやって来たバクフーン。

「なんだありや? いつの間にあんなテントが・・・」

噴水広場にはとても大きなテントがあった。

サーカスとかが出来そうなくらいの大きなテントが。

「・・・入ってみますか・・・」

バクフーンは恐る恐る中に入っていた。

パアーン! パアーン!

中に入った瞬間クラッカーが鳴り響いた!

「な、何!？」

バクフーンは驚いた。

「メリークリスマス 待ってたわよ坊や」

「メリークリスマス、バクフーン」

クラッカーを鳴らしたのはバクフーンの母親のリリ。それにリザードンの両親のメガニウムにジュカイン、そしてチームブラストの皆

やバクフーンが今まで出会って来たライバルやアグノム達神と呼ばれるポケモンやポケモンレンジャーのマニョーラやクレセリア、そしてジムリーダー達だ！

「えっ？えっ？どういう事？」

「前にお前言ってたる？クリスマスに皆でクリスマスパーティーやるうってさ。」

あつりザードンだ。

「実はその時にはもうクリスマスパーティーの準備を始めていたんだ。」

「言ってくれば良かったじゃん！」

「お前を驚かそうと思ってさ。ごめんな隠してて。」  
なるほど、そういう事だったんだね。

「・・・まあ良いよ。にしてもスゲー人数だなあ！それにこのテント、良く用意出来たな？」

「ラグラージのおかげさ。」

そういえばラグラージは大富豪の息子だったね。

「特注で頼んだんだ。でも作ってくれた人は大変だったみたいだよ。ディアルガやパルキアが入れる位の大きさにしたり大人数入れるようにしたりで。」

そりゃそうだ（汗）

「さあ坊や達！話はそこまでにしてパーティーを始めましょう。せっかく用意した料理が冷めちゃうわよ！」

リリやメガニウム、それにジュカインが腕によりをかけて作った豪華な料理が長く巨大なテーブルにズラッと用意されていた。

「美味そう ジュル・・・いっただっきまゝす」 皆のクリスマスパーティーが始まった。

皆美味しい料理を食べたり楽しくお喋りしたり、いろいろ遊びをやったりとクリスマス満喫した。バクフーンへのクリスマスプレゼントは多分、この皆で楽しく過ごした時間なのであろう。

「でもやっぱり何か物が欲しいなあ（笑）」

こらバクフーン！せっかく綺麗にまとめようとしたのに！

「悪い悪い（笑）読者の皆！これから本編のバクフーン達の冒険をよろしくな！じゃあ良い夜を！メリークリスマス」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7684f/>

---

バクフーンのクリスマス

2010年10月21日23時14分発行